

## ■事業報告

## 角土俵の再現と大鵬さん・内館牧子さんの講演会を終えて

主任専門学芸調査員 舟山 晋

平成18年9月23日から11月23日まで開催した、第57回企画展「四角い土俵とチカラビト」で盛岡藩の相撲文化を紹介しました。これに関連して実施した事業の準備経過と当日の様子を報告します。

## 1 角土俵の再現 10月1日(日)

これは習俗を再現する事業です。江戸時代の盛岡藩の遊覧角力を、岩手県相撲連盟に協力をいただき、当館の芝生広場で行いました。盛岡市教育委員会所蔵の『相撲極傳之書』を参考に、角(正方形)土俵の再現作業に6ヶ月、式正・遊覧角力の儀式と取組の再現準備に2ヶ月を費やしました。



角土俵の再現作業で苦しんだのは土俵を囲む五斗俵の製作です。ワラ細工業者への委託予算がなく、製作者探しに奔走しました。そんな折り、岩手県相撲連盟から二戸市浄法寺町の砂子田さんを紹介されました。

依頼内容は、大相撲で使用する俵の3倍の五斗俵、40俵の編み上げです。このサイズは既存の編み上げ器では対応できず、専用の道具作りから始まりました。次がワラ探しです。最近主流の稲は機械で刈り取ると、丈が短く材料に不向きと判りました。幸い砂子田さんが、長い丈の品種を手で刈り取って保管しており、これをいただきました。さらに両脇のフタ専用の編み上げ道具も砂子田さんが作りました。編み上げには一俵あたり四時間程かかり、40俵が完成するまでに約3ヶ月を要しました。



平成18年6月完成(二戸市浄法寺町)

この後の俵詰め作業や柱立ての作業は、岩手県相撲連盟の多くの方々の方々の尽力で進められ屋根あげ作業は業者に委託して9月中旬に角土俵が完成しました。

もう一方の取組の再現練習も、7月から岩手県相撲連盟の主導で行われました。9月30日の全体リハーサルまで、のべ十数回行われ、約50名のスタッフは慣れない所作と練習時間の調整に苦慮しながら、式正相撲と遊覧角力の再現に努めました。



再現当日は晴天に恵まれ、TV局2社、新聞5社の取材を受けました。300人の観衆が見守る中、取り組は整然と進み、その都度詳しい解説が入りました。終了後に、次の開催の有無についての問い合わせが殺到しましたが、演じ手の都合や降雪・気温低下などから、当初より一回限りの企画でしたので、これには応えられませんでした。角土俵は、企画展が閉幕した、11月下旬に撤去しました。

## 2 文化講演会 11月3日(金・祝)

文化の日は入館無料です。これに合わせて毎年、当館の講堂で文化講演会を開催します。今年は、第48代横綱大鵬の納谷幸喜氏を講師に迎えました。大相撲史上、最多の32回の優勝を誇り『巨人・大鵬・卵焼き』の有名なフレーズを生んだ大横綱です。



演題は「裸で学んだ人生観」でした。北海道での生い立ち、大相撲に入門した後の苦労話、最近の力士気質や横綱のあるべき姿などを、講堂・同時放映の教室の215名の聴衆に、

熱く語っていただきました。

現在、大鵬さんは両国国技館にある、相撲博物館の館長です。同館からは企画展にも、多くの資料を借りました。大鵬さんが使用した「心技体」の文字が入る三本の横綱化粧まわしもその一つです。九州場所直前の多忙な時期でしたが、博物館相互の連携と、講演会の主旨に賛同をいただき、半年前に講師派遣の内諾いただきました。

また、当日は再現した角土俵で、市内のちゃんこ店がミソちゃんこを、一関市のもちつき隊が、ねぎ餅・納豆餅・あんこ餅を無料で配りました。この珍味は、瞬間に270名の入場者と、大鵬さんのお腹に入りました。



## 3 民俗講座 11月21日(火)

企画展の最期を飾り、脚本家で横綱審議委員会委員の内館牧子氏を講師に迎えました。「大相撲の宗教学」という演題で、儀礼や年中行事と大相撲の係わりを、エピソードや実例を交え、二時間ほどお話いただきました。講堂・教室の185名の聴衆は、テンポの良い牧子節を十分に堪能しました。

内館氏は多忙な執筆活動のなか、半年前から日程を調整して来盛いただきました。当日は遠方からの聴講者も多く、牧子ファンと相撲通ならではの質問が目立ち、平日とは思えない盛況ぶりでした。



この三つの事業の聴講は無料です。講演会は当館の狭い施設に対応し、当日の入場制限を避ける目的で、往復葉書による事前申込み制をとりました。これにより受付業務が円滑に実施できました。

## ■活動レポート

### ■学芸員室より

#### 岩手の大地 Q and A

大石雅之（学芸員）

問題です。次の記述で正しいものには○、まちがっているものには×をつけなさい。

Q1 三陸海岸の北半分は隆起して、南半分は沈降してできた

Q2 盛岡の三ツ石神社の「鬼の手形」の石は岩手山の噴火で飛んできた

Q3 マエサワクジラの全身骨格は奥州市前沢区から出土した

A1 三陸海岸北部には、地盤の隆起を示す海岸段丘が広く発達していますが、南部の大船渡付近にも狭いながらも海岸段丘が発達しています。海岸段丘の高さと年代から、三陸海岸は年に0.2mm前後の早さで隆起してきたことがわかっ

ています。

いっぽう、南部の海岸の特徴であるリアス海岸は、入江と岬が繰り返し、出入りの多い地形となっています。入江は、もともと谷だったところが沈降して海が浸入したと考える人が多いと思いますが、そうではありません。最終氷期が終わった後、最盛期には年20mmの速さで海面が上昇したといわれています。

地盤の隆起の速さを上回る速さで海面が上昇したために、沈水してできたのが、リアス海岸なのです。答えは×です。

A2 三ツ石神社の石は地下深部でできた深成岩の花崗閃緑岩です。これが隆起し、上にあった地層が侵食されて、今地表に出ているのです。いっぽう、岩手山の岩石は火山岩の安山岩や玄武岩からなり、花崗閃緑岩とはまったく成因が異なります。答えは×です。

A3 考古学的遺物は、地質学からみると時代が新しいので未固結の「土」から出てきますが、地質時代の生物の遺骸である化石は、通常ある程度固結した岩から出てきます。ですから、化石は「産出する」といいます。答えは×です。



田野畑村鶴の巣断崖の海岸段丘

### ■解説員室より

#### ミュージアムショップ

筒井智子（解説員）

岩手県立博物館は、100段以上の階段を登ったところにあります。博物館に入るとすぐに受付があり、その脇を少し入ったところにミュージアムショップがあります。いままで2階のサービスコーナーにありましたが、1階へと場所を移しました。場所が移ったことに驚かれるお客様もいらっしゃいますが、「1階にあった方が便利ね」「買い忘れてもわざわざ上がってこなくても良いわね」といった声も聞かれます。以前と比べお客様がお立ち寄りやすくなったのではないのでしょうか。

現在、ミュージアムショップでは、当館発行の刊行物や他館からの受託物、アンモナイトの化石や鉱物の標本、当館の名前が入ったしおりなどを取り扱っています。

また、企画展開催時には関連した図録等もご紹介しております。

お客様は、小さなお子さんからご年配の方までさまざまな方がいらっしゃいます。その多くの方がご来館記念やお子さん・お孫さんへのお土産としてご購入されているようです。いろいろなものがある中で、子供たちにはアンモナイトの化石や発掘体験キッドが大人気ようです。また、女性の方には水晶関係のグッズ、ご年配の方には郷土に関する本などに人気が集まっているようです。どれにするのかすぐに決められる方もいらっしゃれば、しばらくの間迷っているお客様もいらっしゃいます。お子さんも例外ではありません。どれにするのかしばらくの間悩んでいた、「これがいい!」と決めて親御さんと交渉するお子さんのようすも見られます。また、交渉する時には、なにが欲しいのか、どうして欲しいのか、と一生懸命説明をし

ているようです。自分のお小遣いで買うお子さんや、粘りに粘った交渉の結果買ってもらったお子さん、どちらも自分が欲しかった物を手にしたときには満面の笑みがこぼれます。

みなさんも、ご来館の際には是非、展示室とはひと味違うミュージアムショップに足を運んでみませんか。もしかしたら、自分だけのお気に入りのものや素敵な何かに出会えるかもしれません。

